

年	地域	加害者	被害者	判決が認定した介護の状況	
				認知症と脳梗塞(こうそく)で寝たきりの母親を息子が約8年間介護。深夜のたんの吸引や母親のうめき声で肉体的・精神的に限界を感じた	認知症と脳梗塞(こうそく)で寝たきりの母親を息子が約8年間介護。深夜のたんの吸引や母親のうめき声で肉体的・精神的に限界を感じた
2010年	東京	息子(52)	母親(80)	認知症と脳梗塞(こうそく)で寝たきりの母親を息子が約8年間介護。深夜のたんの吸引や母親のうめき声で肉体的・精神的に限界を感じた	認知症と脳梗塞(こうそく)で寝たきりの母親を息子が約8年間介護。深夜のたんの吸引や母親のうめき声で肉体的・精神的に限界を感じた
12年	奈良	母親(85)	娘(62)	深夜のおむつ交換など、脳性まひの娘の介護を約40年間続けた母親は体力の衰えや不眠からうつ病となった	深夜のおむつ交換など、脳性まひの娘の介護を約40年間続けた母親は体力の衰えや不眠からうつ病となった
13年	神奈川	娘(70)	母親(98)	高齢の母親の世話を娘は不眠や食欲不振となり、うつ病を発症。さらに母親が難聴で意思疎通が困難になりました	高齢の母親の世話を娘は不眠や食欲不振となり、うつ病を発症。さらに母親が難聴で意思疎通が困難になりました
14年	神奈川	夫(76)	妻(77)	深夜徘徊(はいかい)を繰り返す認知症の妻の介護を受けた夫は心身が疲弊し、将来を悲観して無理心中を図った	深夜徘徊(はいかい)を繰り返す認知症の妻の介護を受けた夫は心身が疲弊し、将来を悲観して無理心中を図った
	大阪	夫(85)	妻(80)	パーキンソン病の妻の体調悪化や介護で夫は不眠や食欲不振となり、うつ病を発症した	パーキンソン病の妻の体調悪化や介護で夫は不眠や食欲不振となり、うつ病を発症した

※年齢は当時

毎日新聞は2010~14年5年間に、首都圏1都3県(東京、神奈川、埼玉、千葉)と近畿2府4県(大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山)で起きた介護殺人のうち、裁判記録を確認できたり、関係者を取り材

介護している自分の家族を殺害した「介護殺人事件」44件を毎日新聞が調べたところ、半数近い20件で加害者が昼夜を問わない過酷な介護生活を強いられていてことが分かった。不眠で心身ともに疲れ果てた末に犯行に及んだとみられる。「事件当時はうつ状態」と診断された例も立った。介護疲れによる殺人や心中は後を絶たないが、認知症や障害を抱えた家族を介護する人たちの厳しい現実が浮かび上がった。

(29面に「介護家族殺人事件の告白」)

本紙調査44件一部うつ状態

介護殺人加害半数「不眠」

新毎日

12月7日(月)

2015年(平成27年)

発行所: 大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社

ニュースの扉

夫婦別姓賛成51%
おんなのしんぶん
福岡5季ぶりJ1復帰
町長基準4倍飲酒運転容疑
29 23 15 2

行く所ない筈夫トイレいた
はす
愛媛・伊予市 賦美人草
近藤流健康川柳
初春の集い(1月24日 参加者募集中)
問い合わせ 06-6345-1551

2015.12.7
スポーツ21~23
くらしナビ11・13・16・17
歌壇・俳壇8
小説16
暮・将棋11
社会5
みんなの広場5
読みあげて25

警察庁によると、介護・看病疲れによる殺人事件(未遂含む)は統計を取り始めた2007年から14年までの8年間に全国で371件発生した。年平均では46件となり、8日に1件のペースで起きている計算になる。殺人事件全体の約3~6%を占める。今年も11月までに40件起きてい

年平均46件 07~14年

る(暫定値)。他に自殺や無理心中で亡くなった人は14年までの8年で2272人。一方、介護保険制度に基づく要支援・要介護者は厚生労働省の統計で全国に約615万人(今年7月末)。自宅で介護されている人は約352万人(14年度)に上る。25年にはそれぞれ約830万人、約490万人に急増すると見込んでいる。

お天気



市長基準4倍飲酒運転容疑
29 23 15 2

警察庁によると、介護・看病疲れによる殺人事件(未遂含む)は統計を取り始めた2007年から14年までの8年間に全国で371件発生した。年平均では46件となり、8日に1件のペースで起きている計算になる。殺人事件全体の約3~6%を占める。今年も11月までに40件起きてい



21件(48%)に上っていた。
【波江千春、向畠泰司】

睡眠障害や妄想から、眠らずに介助を求め、大声を出

すことも少なくないとき

る。20件の加害者もこうし

た家族を介護しており、不

眠が続いていることが多い。

いたことがうかがえる。

20件以外の加害者が不眠

に悩んでいたかどうかは分

からなかった。ただ、44件

のうち35件(80%)につい

て、裁判所が介護疲れを事

件の主な要因と認定してお

る。2件の加害者もこうし

た家族を介護しており、不

眠が続いていることが多い。

いたことがうかがえる。

20件以外の加害者が不眠

に悩んでいたかどうかは分

からなかった。ただ、44件

のうち35件(80%)につい

て、裁判所が介護疲れを事

件の主な要因と認定してお

る。2件の加害者もこうし

た家族を介護しており、不

眠が続いていることが多い。

いたことがうかがえる。

20件以外の加害者が不眠

に悩んでいたかどうかは分

からなかった。ただ、44件

のうち35件(80%)につい

て、裁判所が介護疲れを事

件の主な要因と認定してお

る。2件の加害者もこうし

た家族を介護しており、不

眠が続いていることが多い。

いたことがうかがえる。

20件以外の加害者が不眠

に悩んでいたかどうかは分

からなかった。ただ、44件

のうち35件(80%)につい

て、裁判所が介護疲れを事

件の主な要因と認定してお

る。2件の加害者もこうし

た家族を介護しており、不

眠が続いていることが多い。

いたことがうかがえる。

20件以外の加害者が不眠

に悩んでいたかどうかは分

からなかった。ただ、44件

のうち35件(80%)につい

て、裁判所が介護疲れを事

件の主な要因と認定してお

る。2件の加害者もこうし

た家族を介護しており、不

眠が続いていることが多い。

いたことがうかがえる。

20件以外の加害者が不眠

に悩んでいたかどうかは分

からなかった。ただ、44件

のうち35件(80%)につい

て、裁判所が介護疲れを事

件の主な要因と認定してお

る。2件の加害者もこうし

た家族を介護しており、不

眠が続いていることが多い。

いたことがうかがえる。

20件以外の加害者が不眠

に悩んでいたかどうかは分

からなかった。ただ、44件

のうち35件(80%)につい

て、裁判所が介護疲れを事

件の主な要因と認定してお

る。2件の加害者もこうし

た家族を介護しており、不

眠が続いていることが多い。

いたことがうかがえる。

20件以外の加害者が不眠

に悩んでいたかどうかは分

からなかった。ただ、44件

のうち35件(80%)につい

「どうしている
しんどくなつてしまふく
路肩に停車していると、妻
が目を覚まして怒鳴つた。
「走れ」「何しどんねん」。
再びアクセルを踏んだ。
深夜のドライブは1カ月
以上前から毎日のように続
いていた。認知症で人が変
わつてしまつた妻が毎晩、
「どっかに連れて行け」と
大声でわめくからだ。
自宅に戻るのはいつも空
が白みかけた頃だった。

午前2時を過ぎ、街はすっかり寝静まっていた。2012年8月中旬だった。兵庫県姫路市の男性(78)は認知症の妻(当時71歳)を助手席に乗せ、行く当てもなく車を走らせた。寝不足のために頭がぼーっとしていた。ハンドルを握りながら、暗闇に浮かび上がる姫路城を眺めたり、姫路港の先に広がる漆黒の海を見つめたりした。妻は目をつむって、うと

介護家族



1
(1面参照)

妻は認知症魔の深夜

2月、男性に懲役3年、女性に懲役5年、保釈觀察付きの執行猶予5年（求刑・懲役5年）を言い渡した。

「お母ちゃんを殺した時
の記憶はほとんどない。た
だ、自分の中の大きな何か
から妻と並んで寝たダブル
ベッド、壁に何枚も張ったた
だ。
どんと寝付かない日が続く
中、妻を車で連れ出すなど
献身的な介護を続けた。身
体的、精神的疲労は相当多
大に蓄積されていた」
「男性は今、妻を殺害した
家に1人で暮らす。結婚時

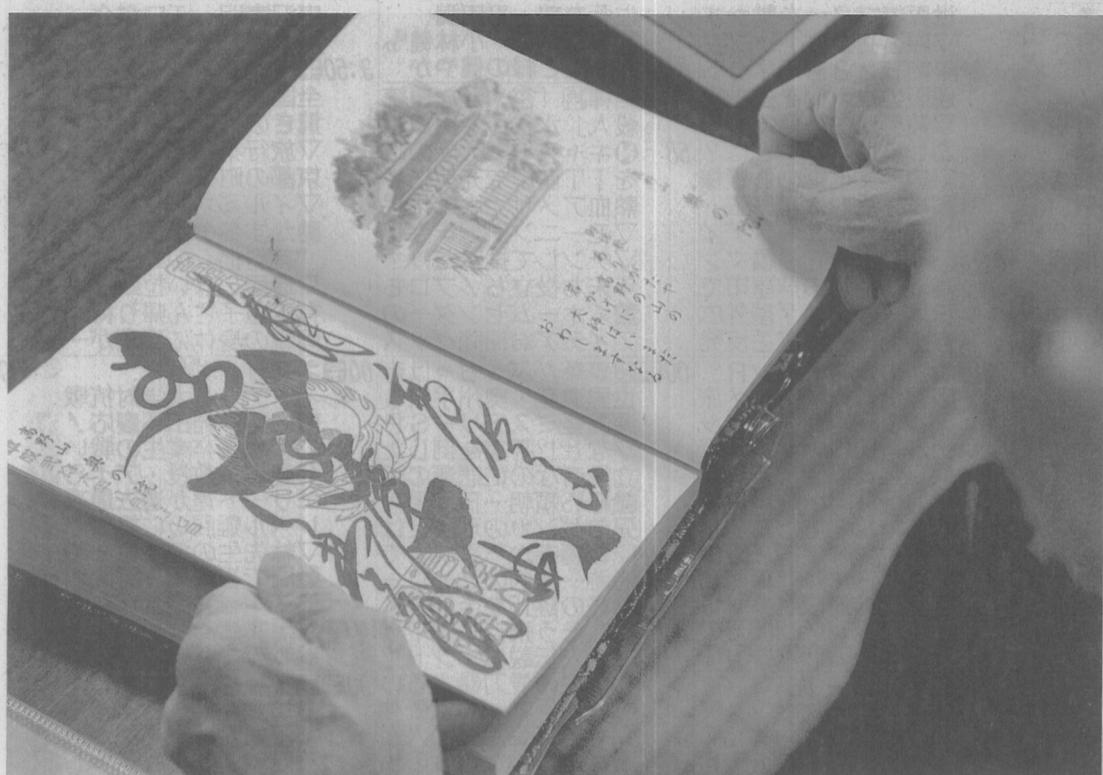
んな。成仏せえよ
今年9月16日辰、兵庫県
宝塚市の中山寺。秋風が吹
き始めた西国巡礼第二十四
番札所で、男性は両手を合
わせて妻に語りかけた。
153回目の祈りだ。妻

退職金全額の1000万円で車を初めて買った。
新聞配達のアルバイトで費用を稼ぎ、妻と北海道や石垣島を旅行した。中国やカナダにも連れて行った。

が崩れた。もうこれで終わ
ろう。自分もあの世に行こ
うと。それだけやつた」
この秋、男性は取材に応
じ、重い口を開いた。

まずに働いた。帰宅後も時計の修理に没頭した。「仕事ばかりで、家庭をほつたらかしにしていた」

不眠ドライブ 1カ月の末



男性は妻を供養しようと靈場巡りを続ける。納経帳（のうきょうちょう）には各札所の朱印が押されている一兵庫県姫路市で10月8日、加古信吉撮影

知人の紹介で出会った妻と28歳で結婚した。姫路市内にマンションを買い、3人の子宝にも恵まれた。休

（昭和11）年父義
が国鉄職員の家庭に四男と
して生まれた。中学を卒業
して時計職人になり、姫路
市の時計店に就職した。

を供養しようど、四国八十八ヶ所と西国三十三所の靈場巡りをしている。

き始めた西国巡礼第二十四番札所で、男性は両手を合せて妻に語りかけた。妻

んな。成仮せえよ

が崩れた。もうこれで終わ
ろう。自分もあの世に行こ
うと。それだけやった」
この秋、男性は取材に応
じ、重い口を開いた。

ご意見や体験を

ご意見や体験をお寄せください。郵便は〒530-8251(住所不要)毎日新聞社会部「介護家族」取材班▽メール(o.sha kaibu@mainichi.co.jp)▽ファクス(06-6346-8185)

特養待機26万人

介護が必要な高齢者らを支える介護保険制度が2000年4月に導入されたが、支える人手や施設は足りていなかった。厚生労働省によると、自宅での生活が難しい人向けの特別養護老人ホームに申し込んだ在宅の要介護者のうち、13年10月時点の待機者は約26万人。介護保険制度は市町村の要介護認定を受けた65歳以上（特定疾病患者は16歳も対象）が在宅か施設でのサービスを受けられる。費用負担は1割（一定所得以上は2割）。

介護疲れによる殺人や心中がなくならない。在宅介護の扱い手に何が起きているのか。シリーズ企画「介護家族」で介護社会の現実を追う。(今回の連載は計6回予定。向畠泰司、渡辺千春、前田幹夫が担当します)